

Information

-.--.-*-.-*-.-*

新型コロナウイルス感染症や、配食等の活動に関する情報を集めました。
少しでもみなさまのお役に立ちますように。

滋賀県ホームページ
(新型コロナウイルス感染症について)



<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryouhukushi/yakuzi/309252.html>

滋賀県新型コロナウイルス感染症対策サイト



<https://stopcovid19.pref.shiga.jp/>

NPO法人全国こども食堂支援センター おすびえ



<https://musubie.org/>

こども食堂実践者の会 (Facebookページ)



<https://www.facebook.com/kodomosyokudoujissennsya/>

新型コロナウイルスで新たにお弁当作りや配食を
はじめたこども食堂活動団体のみなさまへ
(こども食堂サポートセンター)



<http://kodomosyokudo.mow.jp/news/705>

子どもたちの笑顔に一日も早く会えますように！
みなさまもくれぐれもご自愛ください。

困りごと、悩み、
うれしかったこと、
何でもいつでも
ご連絡ください

子ども食堂つながりネットワークSHIGA 事務局
滋賀の縁創造実践センター 滋賀県社会福祉協議会

〒525-0072 草津市笠山七丁目8-138
TEL 077-567-3924 FAX 077-567-5160
E-mail shiga-hug@shigashakyo.jp



子どもの笑顔はぐくみプロジェクト ニュースレター

はぐみぽ通信

特別号

2020.4 発行

県内129か所(4月末現在)にひろがる「遊べる・学べる淡海子ども食堂」は、一つ一つの子どもの食堂の思いや運営の仕方、魅力を大切に、子どもを真ん中においた地域づくりに取り組んでいます。

そんな中、滋賀県内でも新型コロナウイルスの感染がひろがり、地域のあたたかな居場所である子ども食堂の活動にも大きな影響が出ています。

さまざまな理由で活動中止を余儀なくされたり、臨時休校になったことで子どもたちの姿を見かけなくなったり、普段子ども食堂に来てくれている子どもたちや地域の方々が今どんな風に過ごしているのか心配な気持ちになったり、いつまでこの状況が続くのかわからないなか不安や焦りが大きくなったり…。

子どもたちはもちろん、子ども食堂を実践するなかまの中でも先の見えない“モヤモヤ”がひろがっています。

「子ども食堂つながりネットワークSHIGA」では、こんな時だからこそ、子ども食堂同士で思いや情報を共有し、みんなで支え合いながらこの危機を乗り越える一助になればと、県内子ども食堂の声をまとめて発信することにしました。



発行日:令和2年4月30日

発行:滋賀の縁創造実践センター

滋賀県社会福祉協議会

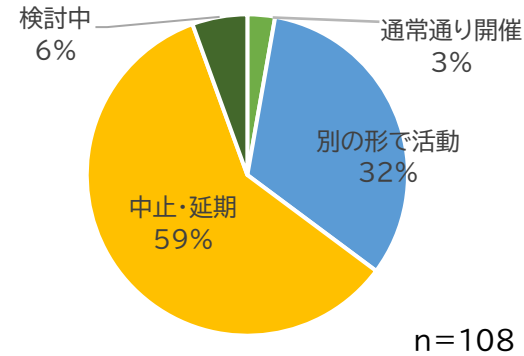
子ども食堂つながりネットワークSHIGA事務局

1. 開催状況

※4月1日～27日に、子ども食堂のみなさまと市町社協に電話等で聴かせていただいた内容をもとにまとめています。

■各子ども食堂の開催状況

- | | |
|-----------|--------|
| 1. 通常通り開催 | … 3食堂 |
| 2. 別の形で活動 | … 35食堂 |
| 3. 中止・延期 | … 64食堂 |
| 4. 検討中 | … 6食堂 |



中止している 子ども食堂の声や思い

- ・スタッフで話し合ったが、3つの「密」を避けることがとても難しい。中止せざるを得ない。
- ・お弁当配付も考えたが、公民館が閉鎖していて調理する場所がない。
- ・ボランティアが高齢者ばかりなので、感染リスクを考えると集まることはできないと判断した。
- ・家でとじこもっている子どもたちや保護者のことを思うとなんとかできないかと思うが、万一感染者が出るなど、何かあったときに子ども食堂が責任を負いきれないと思い、中止している。
- ・食事はなしで居場所のみの開催を予定していたが、会場が使用できなくなった。
- ・子どもたちも久しぶりに友達に会うとテンションが上がって、どうしてもくっついてしまう。それをやめさせることは難しい。
- ・市の建物を使用しているので、行政から自粛要請が出ている。
- ・特定の子だけにお弁当を届ける等ができない。

形を変えて活動されている内容

○食材等の配付

- ・食事はやめて、お菓子や飲み物を持ち帰ってもらっている。
- ・子ども食堂が中止になったので、寄付でもらった食材をいつも来てくれている子どもたちや一人暮らしの高齢者等に届けた。
- ・いつも子ども食堂に来てくれている子どもや高齢者の見守りも兼ねて、お菓子を持って訪問した。

○お弁当の配付

- ・営業許可もと、申込制でお弁当を届けている(1食300円)。
- ・休校期間、平日毎日お弁当を配付している。どこまで続けられるかわからないが…。
- ・ボランティアや企業の協力で、市社協と一緒ににおにぎりとおかずを届けた。
- ・学区の民生委員が把握されている家庭へ食材を届けようと思っている。
- ・学区内の子どもや高齢者に呼びかけて、コミセンでお弁当を配付した。
- ・ドライブスルーで子ども食堂の開催日にお弁当を取りに来てもらっている。

○居場所を開催

- ・週3回、昼間預かってもらうところのない子どもたちの居場所を開催している。
- ・食事はなしで、外遊びのみ開催。

○その他

- ・子どもたちが家でできる工作キット等を作成して配付する予定。

こんなことに
困っている…

会場がない

衛生用品(マスク、
消毒液等)が足りない

活動したいけれど
保険が適用されない

スタッフが高齢者

感染拡大への恐怖

人を集めることへの
周囲からの批判

2. 子ども食堂運営者の葛藤

- ・何かしようと動けば批判されてつらい。今はウイルスよりも人が怖い。
- ・子どもたちのために何かしたい気持ちと、万が一何かあったら…という気持ちの間で葛藤しています。
- ・新聞やニュースで、全国の子ども食堂が緊急的に支援されているのを見ると、自分たちが何もしていないことが苦しくなる。
- ・何度もスタッフで話し合い、何とかできることがないかと探したが、今は感染拡大を防ぐことが最優先。どの選択をしても間違っていないと思う。
- ・今は我慢するときだと思うが、いつも子ども食堂に来てくれていた子たちの顔が浮かんでしまいます。

3. 子どもたちの様子

○家庭環境によって、十分にケアを 受けていない子どもがいる

- ・みんな漠然とした不安やしんどさを抱えていて、元々しんどかった子がさらにしんどくなっている。
- ・下にも兄弟がいて、お母さんがその子にかかりきりで、みてもらえない子がいる。
- ・休校期間、小学校での預かりや学童もあるが、送り迎えが必須のため、本当に必要としている子が行けていないのではという懸念がある。
- ・子どもが全然外に出ていない。子ども食堂を居場所として出てきてくれていた子どもたちが、また引きこもってしまっているかもしれない。

○しっかり食事を摂れていない子どもがいる

- ・子どもだけでごはんを食べていたり、留守番をしていたりする家がある。
- ・学童にお弁当を持っていけない子がいる。

○時間を持て余している子どもがいる

- ・子どもが時間を持て余している。ゲームばかりしているという声も聞く。
- ・日中は、祖父母に見てもらって何とか過ごしているのだと思うが、コンビニ通いをしている子どもたちの姿もある。

○しんどさを外に打ち明けられない子どもがいる

- ・子どもは親の不安やイライラを敏感に感じ取っているため、外にしんどさを打ち明けられない状況にいる子どもは大変だと思う。
- ・いろんな見守りが途絶えてしまっているため、心配。

○その他

- ・これまで来てくれていた子どもや家庭のモチベーションが下がっていないか心配。
- ・子どもが外で遊んでいる姿を見ないので、どう過ごしているかわからない。



ピンチをチャンスに！
いつでもスタンバイ
しています！！

4. 活動が再開できるまで…！

- ・ボランティアさんが子どもたち(小中学生)に手紙を書いて送ろうかと計画中。
- ・LINEなどでつながっている家庭に連絡して、様子や悩みを聞いています。
- ・子ども食堂がせっかく地域に根差してきたので忘れられないように、活動を紹介するチラシだけは配り続ける。
- ・昨年度の報告書をスタッフや協力してくださっていた方々に届けた。これを見て、再開を楽しみに待っていてほしいな。
- ・「次はいつ子ども食堂があるの？」と聞いてきてくれる子たちもいる。いつでも再開できるように準備をしておくことが今できることだと思う！
- ・グループLINEで子どもたちともつながっています。「元気にしてるよ！」の声も聞けてうれしい限りです。

5. その他・ご提案等

さまざまなご提案を
ありがとうございます！



- ・ウイルスが落ち着いたとしても、どの時点で再開するのか、いろんなリスクを考えると判断が難しい。県社協や学校の後押しがあると心強い。
- ・子ども食堂交流会をするのはどうか。この間、「他の食堂はどうしていたのか」を知ることによって、次につながるはず。実際の事例に学ぶことも多いと思う。
- ・これまでも、衛生面では注意を払ってきたがさらにデリケートになる。感染症への対応として、もう少し具体策やガイドラインのようなものがあれば助かる。自分たちの身体がどうかの判断ができない状況で、どうしたら再開してもいいかを教えていただけると助かる。

しんどいのは子どもだけではない

○保護者への心身の負担も大きい

- ・密集するため、学童等に行かせたくない親もいると聞いている。
- ・保護者の方と話していると、子ども以上に親御さんの心身に負担がかかっているように感じる。
- ・子育て支援センター等も全て閉館になっていて、お母さんたちの出かける場所がない。毎日子どもと二人きりではとてもしんどいのではないかな。
- ・両親が働いていて、祖父母が子どもの面倒を見ているが、体力がもたない。
- ・本当にしんどい家庭ほど「助けて」と言ってくれない。

○家計に負担がかかっている

- ・子どもが家にいるので、食費がいつもよりかかる。留守番をしてもらうためにDVDを借りてきたり、家で楽しめるものを購入したり、細々したことでも家計に負担がかかっているのではないかな。

スタッフも…

- ・なかなか子ども食堂再開の目途が立たず、スタッフも、気が滅入っていないか心配。
- ・せっかくできた地域でのつながりがなくなってしまわないだろうか。

